

第14回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 1998年2月27日（金）10:30～11:45

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 藤家委員長代理、依田委員、逸藤委員、木元委員
動力炉・核燃料開発事業団
植松副理事長、坪谷理事
（事務局等）今村審議官
伊藤原子力調査室長
池本専門委員
有本廃棄物政策課長
廃棄物政策課 岡谷、飯島
資源エネルギー庁原子力産業課 小山田
原子力調査室 松澤、杉本、新井

4. 議 題

- （1）北海道知事に対する申し入れについて
- （2）その他

5. 配布資料

- 資料1-1 申し入れについて
- 資料1-2 北海道幌延町における深地層試験について
- 資料2 幌延町における深地層試験についての考え方
- 資料3 高レベル放射性廃棄物の中間貯蔵の取組みについての考え方
- 資料4 第13回原子力委員会定例会議議事録（案）

6. 審議事項

- （1）北海道知事に対する申し入れについて
議題の件について、事務局より資料1-1及び資料1-2に基づき、2月26日、北海道知事に申し入れをした旨報告があった。
これに対し、
・これまでの経緯を十分分かった上で知事に受け取っていただいたと考えてよい
か。知事の感想はどうか
（事務局より）これまで十数年の経緯を踏まえて、関係者の協力を進めてこの申
し入れを行った
・申し入れにある「国際的研究拠点」とはどのようなことを考えているか
（事務局より）我が国に深地層研究施設がなく、海外の深地層研究施設を利用す
るため研究者を送り出しているのが現状である。その一方で、本分野に対して
非常に関心が高まっており、アジア地域を中心として、技術的な拠点をはじめ
いろいろな観点からコミュニティを広げていくことが大切と認識している
・これから原子力開発を始めるアジア諸国に対しても、原子力開発に当たって存
在する課題について十分分かった上で進めてもらうことは大切であり、そのた
めにも本施設を活用していくべき
・今後の日本における原子力開発利用は、単に国内的な問題だけでなく国際協力
が重要であり、相互に有益な結果が得られるよう進めることが大切
・これまでの経緯は別にしても、ここで改めて再スタートするという前向きな気
運が生まれ、「雨降って地固まる」ように着実に進めてほしい
・国内外の研究者にだけ限るのではなく、地元をはじめ広く国民に開放し、国民
が実際に目にすることができる開かれた研究施設としてやっていくことが大切

- ・（各地で行った高レベル放射性廃棄物処分への今後の取組みに関する意見交換会において）研究施設に限定してさえも建設に反対の方もいる一方、中立的あるいは推進の意見を持つ方については、原発から出た廃棄物の処分について自分たちの問題として早急に十分議論していくべきとの意見が多かったと認識。日本は諸外国に比べて本分野に関する研究が遅れており、原発の是非論は別にしても、処分研究を積極的に進めるべきとの感触をもった
- ・日本の原子力開発にあたっての大きな点は立地問題であり、立地地域の協力があってはじめて進むものであることは原子力委員会としても十分認識している。実現性のある計画とともに、実施する事業者のモデルが求められており、これらの観点からも国民の声に十分応えていくことが大切

等の委員の意見及び質疑応答があった。

また、動力炉・核燃料開発事業団より資料２及び資料３に基づき、幌延町における深地層試験についての考え方、高レベル放射性廃棄物の中間貯蔵の取組についての考え方等について説明があった。

これに対し、

- ・２０００年の前までに可能なのか
（動燃より）研究開発の成果を２０００年の前までに取りまとめ、幌延での深地層試験については２０００年以降の様々な地層関係の研究開発に反映させていく。２０００年目途に事業主体が設立され、実施主体が行う２０１０年頃から開始される処分予定地におけるサイト特性調査や、国の安全基準の策定にも活用できるよう整備を進めていきたい
- ・知事への申し入れの際に、深地層試験についても説明しているのか
（事務局より）申し入れをしたのみで説明はしていない。知事からは「国や動燃に対するこれまでの申し入れに対して、国の基本的な考え方が示されたものと思うが、今後申し入れの具体的な内容について検討したい。詳細な資料等について提供をお願いしたい」との発言があり、今後これらの資料を提出して説明していくことになる
- ・申し入れに関する報道を見ても、不信頼や不透明さを言われ、なぜ幌延でやるのかとの疑問が強い。深地層試験の詳細についての説明以上に、事業者のモデルや日常からの対応が大切である、これまで情報公開が不十分であったのは、一般の非専門家に説明しても仕方がないというような姿勢がなかったか。情報を公開する人に対する信頼が大切であり、国民に十分理解できるよう誠意を持って対応していくべき
- （動燃より）ご指摘の点は十分認識しつつ進めていきたい
- （事務局より）意見交換会での議論等も踏まえると、こうした研究施設の処分事業全体の中での位置づけについて、処分事業、研究開発、安全規制、中間貯蔵の大きなマイルストーンの中で明確にしつつ進めることが重要と考えている
- ・申し入れの中の「先の貯蔵工学センター計画を取り止めて新たな提案として北海道幌延町における深地層試験を早急に推進したい」という文言がもつ意味をよく理解することが大切であり、透明性と公開性をもって手順を踏みながら社会性に特に留意して進めることが重要
- ・何をどこまでやると目的が達成されるのかを明らかにしていくことが大切であるが、その視点が欠けている。今後のプロジェクト評価の観点からも目的意識をしっかりと持って進めてほしい
- ・なぜ地層処分するのかという根本的な疑問を持っている方もいるので、このような点に関しても答えていくことができるようにしてほしい
- ・提案の施設は多目的利用可能なものであり、国家的研究資産として総合的に活用を考えることが重要

等の委員の意見及び質疑応答があった。

（２）議事録の確認

事務局作成の資料４第１３回原子力委員会定例会議録（案）が了承された。

（３）事務局より、第１３回原子力委員会で非公開で審議された、「日英原子力平和

「利用協力協定」については、2月25日に署名されたことから非公開扱いとされていた資料を公開扱いとした旨、発言があった。

なお、事務局より、3月3日（火）の定例会議は休会する旨、3月6日（金）の臨時会議は調整中である旨、発言があった。